

議 事 録

件 名	第 34 回児童虐待防止対策委員会	
日 時	令和 8 年 6 月 25 日（木）14：00～15：30	
場 所	久留米市役所 3 階 302 階議室	
出席者	委 員	重永委員長、佐田副委員長、村井委員、岡部委員、佐藤（佐）委員、竹下委員、乙丸委員、佐藤（健）委員、田中委員
	事務局	（家庭子ども相談課）緒方補佐、堤補佐、久保 （安全安心推進課）新郷課長、新村補佐、田中
欠 席 者	早川委員、小野委員、堀江委員、野口委員、大久保委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	1. 開会 2. 協議事項 （1）2025（令和 7）年度取組実績及び 2026（令和 8）年度取組方針（案）について （2）広報啓発活動について 3. その他 （1）令和 8 年度セーフコミュニティ会議等スケジュール（案） （2）セーフコミュニティ標語の募集について 4. 閉会	
質 疑	<u>1. 開会</u> ・事務局より開会 ・傍聴者の確認「なし」 <u>2. 協議事項</u> <u>(1)2025（令和 7）年度取組実績及び 2026（令和 8）年度取組方針（案）について</u>	
委 員 長	赤ちゃんふれあい体験の募集についてのアイデア等あればご意見お願いしたい。	
副 委 員 長	赤ちゃんふれあい体験の親子募集については、各校区の主任児童委員で、募集チラシを作っている。いくつかの校区では QR コードから申込みが出来るように作っている。また、全実施校区を載せたチラシを、主任児童委員の正副ブロック長会議で配布し、主任児童委員全体で共有できる仕組みを作っている。各校区の子育てサロンでも直接募集をかけており、少しでも多くの親子に参加してもらいたいと思っている。1 つの学校に参加した親子が別の学校にも参加したり、別のママ友を誘ってまた翌日参加したりもしている。お母さんの中でも、この赤ちゃんふれあい体験はいい経験として受け取ってもらえており、参加者は増えていると感じている。	
委 員 ①	学校運営協議会（コミュニティスクール）が、学校での赤ちゃんふれあい体験事業に積極的に取り組んでいる。取組は、小学校と、中学校 5 校に広がっている。青陵中学校では、活動の中核を担う役割を持つコーディネーターの存在もあり、地域の方が積極的に赤ちゃんふれあい体験に参加できている。	

議 事 録

委 員 長	この赤ちゃんふれあい体験を通して、生徒が「自分もこんなふうに大事にされていたんだ」と、命の大切さを認識してもらえるとよいと思っている。 私が参加したときには、きょうだいが多い生徒が、赤ちゃんの扱いに慣れているなど感じた。他の生徒から尊敬されている場面もあったので、一石二鳥、三鳥のように感じることもあった。
委 員 ②	委員①が発言されたコーディネーターが入って行うコミュニティスクールの事業で、高牟礼中学校は昨年、主任児童委員が中心となって、赤ちゃんふれあい体験を行ったと報告をもらった。以前、教頭先生に、他の学校では赤ちゃんふれあい体験をしているのに、なぜ高牟礼中学校はしないのかと話したことはあったが、昨年、3年生を対象に実施したと伺った。今年も実施するかは分からないが、他の中学校にも広がってほしい。 私も、以前三潕中学校の赤ちゃんふれあい体験に参加していた。その時に手作りおもちゃと生徒からの手紙をもらってすごく嬉しかったので、自分の子どもが中学生になった時に、ぜひ体験させたいと思った。親にもメリットがあると思うので、親目線での感想や、情報発信があるとよい。
委 員 長	現在、くるるんで出会い、つながりを持っているお母さんが多いと思う。 くるるんのチラシを、小学校から配ってもらうのもよいのでは。 ネットよりも口コミでのつながりが大きいと思う。
副 委 員 長	校区の子育てサロンは校区外の人でも対象としているので、参加しやすいのではないかと考えている。
委 員 ③	くるるんでは、中高生子育て体験ボランティアという事業を夏休みに行っている。約30人の定員で募集をかけるが、申込初日に定員が埋まって、キャンセル待ちが出るほどの人気の事業。中高生の中でボランティアが浸透していて、内申書に書けるからという理由もあるかもしれないが、きっかけは別として、こういう施設に足を運んでもらうということに意味があると思っている。 くるるんの強みは、自然な親子の姿を見ることができるところだと思っている。
委 員 長	資料4ページで、虐待の60%が実母と書いているが、最近は実父と実母の割合が近まっていると聞いた気がする。今の久留米市の状況はどうなっているか？
事 務 局	令和6年度の久留米市は、実母が55.4%、実父が36.6%、令和7年度は実母が57%、実父が34.5%。
委 員 長	子育て応援動画を作成しており、ネタを提供してほしい。 保護者がいつどこで、どんなことが気になっているのかを知りたい。まだ喋らない子ども世帯の困りごとを出してもらえると、もっと動画を充実させることが出来る。

議 事 録

委 員 ④	新生児訪問事業については、毎年実施していただく校区も増えており、訪問する家庭も増えている状況。地域で孤立している子育て世帯は、まず子育てサロンに行くことから始めてもらいたい。行政が出来ることにも限りがあるため、地域の方の力を借りながら、地域で孤立しているお母さん、お父さんと繋がり、安心して子育てができるような関係を一緒に作っていければと思っている。
副 委 員 長	子育て支援センター等からの紹介で、子育てサロンに来られる家庭もあるが、課題を抱えている家庭は（中には多子世帯もある）、自家用車を持っていないことも多く、サロンに行きたいけど行けないという状況にある。
委 員 ⑤	気になる子がいない校区はないと思うので、新生児訪問における主任児童委員さんの同行訪問が、全校区に広がっていくとよいと思う。 多胎児の家庭への支援の中には、多胎児の先輩ママが子育ての支援に行くものがあり、実際に助かっている家庭は増えていると思う。しかし、支援をお断りされる家庭は一定数いる。母子手帳交付の窓口で、分かりやすく説明してもらえるとよい。
委 員 長	窓口の職員が、どのような説明をすればよいか。
委 員 ⑤	母子手帳交付時に、多胎児であるという登録を市と連携してできると支援者も動けるが、多胎児支援の説明だけだと、支援を使わずに終わる。また、他市から転入してきた多胎児の家庭は、支所や市民センターで手続きをす場合、子ども子育てサポートセンターを通らないので、多胎児家庭への育児支援があるという情報を知らないことが多い。2歳未満が使えるサービスなので、サービスを使えていない多胎児の家庭には、1歳の誕生月で再度案内をしてほしい。虐待のリスクは、多胎児の場合、単体児の6倍と聞いている。 先ほど多子世帯で自家用車が無くてサロンへ行けないという意見が出ていたが、他県のようにタクシー券やクーポン券等、現金を振り込むのではなく、子どものために使う子育てクーポンを配るのはどうか。
委 員 ⑦	私も子どもが生まれたときに、すべて自分でやるしかなかったので、取り残されたような気持ちになった。1時間だけ子どもを面倒見てほしい時も、そこにお金をかけることはできず、一人で頑張るしかなかった。託児などの仕組みを作ってもらえるとよいと思う。
委 員 ⑧	個人的な意見としては、赤ちゃんふれあい体験は素晴らしいと感じている。 肌と肌が触れ合うことで生まれる感情もあると思う。未実施の中学校にも広がってほしい。 警察の立場で話をすると、最近子ども自身からの虐待の通報が、肌感覚ではあるが増えている。子ども自ら通報してきたことには、何としてでも真相究明をしないとイケない。相談を受け止める大人側の対応も大事になってくる。

議 事 録

(2) 広報啓発活動について

委 員 長 このセーフコミュニティは何年から始められているのか。

事 務 局 平成 23 年度からスタートしている。

委 員 長 新生児訪問や赤ちゃんふれあい体験も、当初は実施する校区が少なかったが、年数を重ねるうちに増えている。歴史を感じる。

3. その他

安全安心推進課 ・ 令和 8 年度セーフコミュニティ会議等スケジュール（案）について
・ セーフコミュニティ標語の募集について

4. 閉会